

2002年3月4~6日 若手研究者によるプラズマ研究会



大型ヘリカル装置における 周辺・ダイバータプラズマ及び プラズマ・対向壁間相互作用研究

増崎 貴、LHD実験グループ(核融合研) 共同研究者諸氏(東大、長野高専、北大)



発表内容



1.はじめに ~ LHDの紹介を兼ねて~ 2.LHDにおける周辺及びダイバータプラズマ 3.LHDにおけるプラズマ・対向壁間相互作用



大型へリカル装置(LHD)







大型ヘリカル装置(LHD)











Designed for Steady State Operation

Actively cooled first wall panels and divertor plates were installed.









1. 電子温度 10 keVの達成

2.イオン温度 5 keVの達成

3.内部輸送障壁の形成?







発表内容



- 1.はじめに ~ LHDの紹介を兼ねて~
- 2. 周辺及びダイバータプラズマ
 - ・LHDの周辺磁場構造 ~ ヘリカルダイバータ配位~
 - ・ヘリカルダイバータプラズマ特性
 - ・周辺プラズマ特性
- 3. プラズマ・対向壁間相互作用



LHDの周辺磁場構造



Edge magnetic structure can be divided roughly three regions.

- 1. Island and stochastic layer region
- 2. Edge surface layers region
- 3. Divertor







as helical coils, $1/2\pi = 5$.



20

16

12

8

4 6

90

R_{ax}=3.90m

180

 $\theta_{X-point}$ (degree)

 $S = (\iota_{X-point} - \iota_{LCFS})/(r_{X-point} - r_{LCFS})$

270

s (arb. units)





360



R_{ax}=3.9m

Positions of the X-points do not change largely in different Rax operation. The Xpoints have same rotational transform

NIFS

as helical coils, $1/2\pi = 5$.



Poloidal angle, θ (°

ヘリカルダイバータへの粒子デポジション分布



Profiles of Particle Deposition on the Divertor (Calculated by T.Morisaki) Axisymmetric divertor in tokamaks

NIFS

粒子拡散を模擬した磁力線追跡計算結果



Toroidal angle, ϕ (°)

Profiles of Particle Deposition on the Divertor

(Calculated by T.Morisaki)

粒子拡散を模擬した磁力線追跡計算結果

ヘリカルダイバータプラズマは不均一



Probe Position (mm)





the array cannot obtaine complete profile. In this R_{ax} case.



ダイバータへの熱・粒子デポジション分布計測



Total ion saturation current to probe arrays, and ratio of ion saturation current to #1 and #3 probe array to that to #2 array.



NIFS

Profile of normalized temperature rise measured by thermocouples, and particle deposition obtained by field line tracing.



ダイバータへの熱・粒子デポジション

NIFS



R_{ax}=3.75m, #27731 Photo by M.Shoji



運転磁場配位の違いによる変化





R_{ax}=3.50m, #26972



 R_{ax} =3.75m, #27731



R_{ax}=3.60m, #28170



 R_{ax} =3.90m, #29987 Photo by M.Shoji

The H_{α} line emission profile near the divertor plates changes with the magnetic axis position.





Boundary of open field lines layer

Divertor plate with L-probe array

Profiles of particle flux to a divertor plate shows that the positions of Γ_{div} peaks agree with peaks of L_c profiles.

Only long field lines, over several hundred meters, approach the vicinity of LCFS.

They are the main channel of particle and heat transport from LCFS to the divertor.



Profiles of particle flux to a divertor plate at torus inboard side.









Electron density and temperature at LCFS and divertor versus line averaged density.

Both $n_{\rm e}$ and $T_{\rm e}$ decrease drastically comparing with them at LCFS.

 T_e and n_e at the divertor have almost same \overline{n}_e dependences with them at LCFS.

Signs of high recycling or divertor detachment have not been observed.

 T_e rises with an increase of heating power. However, in the regime of P_{abs} >2MW, the increase becomes modest.







Tore Supra

with ED

_⊐

(1018

З.



H.Matsuura, et al., Nucl. Fusion 32 (1992) 405.

J.P.Gunn, et al., Plasma Phys. Control. Fusion 41 (1999) B57.

.6 (3)



周辺部での電子密度・温度分布







開いた磁力線領域におい て電子圧力は低下





 $L_k \delta_{\chi_e}$ には相関がありそうである

NIFS



高密度運転











ダイバータ部電子密度に roll-over が観測された。

ダイバータデタッチメント?

NIFS



ダイバータ部電子温度と、周辺部電子温度 は比例関係を保っているように見える。





燃料及び不純物粒子の遮蔽

CCDカメラで得られたプラズマ画像



JETホームページより



LHDホームページより

02-01-29 TUE 11:04:56 033657 00:00:00

トカマクの場合 ダイバータ領域に強い発光

LHDの場合は?







Measurement

Calculation



計算とCCD画像の比較から、LHDの場合おおざっぱには、開いた磁力線領域全体 が発光していると言える。



ヘリウム原子発光強度分布





ゼーマン効果を利用し、主たる発光位置を特定 主たる電離領域を特定
 開いた磁力線領域の外側、特に×点近傍が主たる電離領域になっている。
 ダイバータ領域ではない。
 最外殻磁気面から離れた領域に粒子源。



ダイバータプラズマ中のイオン温度計測





勝又プローブ(ion sensitive probe)による計測 (長野高専 江角氏) ·初期的なデータ解析が行われつつある。



まとめ



ヘリカルダイバータ配位の複雑な周辺磁場構造と、プラズマ特性の関係について研究を進めている。

- ・磁力線追跡計算による、ダイバータへの粒子デポジション分布、ダイバータ板上の粒子
 東分布予測は、計測結果と定性的に一致している。
- ・ダイバータ部の電子密度・温度は最外殻磁気面近傍の値に比べて大きく低下
- ·磁力線構造が熱·粒子の輸送に大き<影響している。
- ·高リサイクリング、ダイバータデタッチメントは観測されていない?
- ・燃料粒子、不純物発光は、ダイバータ領域よりも開いた磁力線領域の外周で強い。

ダイバータ部での遮蔽効果は小さい



発表内容



- 1.はじめに ~ LHDの紹介と本発表のスコープ~
- 2. 周辺及びダイバータプラズマ
- 3. プラズマ・対向壁間相互作用
 - ・LHDにおける壁コンディショニング
 - ・プラズマ対向壁の損耗と再堆積
 - ・第一壁構成材料の挙動











#11548 ~ Ti gettering

(真空容器壁の10%)

#11782 ~ Ti gettering

(真空容器壁の25%)

コンディショニングの進展

酸素不純物の減少
炭素不純物は酸素不
純物程は減少せず。

吸収パワに占める放射損失の

割合はコンディショニングの進展
に大きく依存せず。

ある程度温度が上がっ てしまえば軽不純物 の放射は影響が小さい? ペデスタル温度を制 限している可能性? 放射強度分布との整 合性? 水素放電、B_t = 2.75T、R_{ax} = 3.6 m、W_p > 150 kJ

NIFS





ボロニゼーション



目的: 軽不純物の低減
 第一壁(SUS316)へのボロン被覆による、金属不純物の抑制

方法:

・グロー放電中にジボランガス(B_2H_6 10% He希釈)を導入

·導入口は1ヶ所 ボロンで被覆されるのは、プラズマ対向面表面積の概ね30%程度

今年度実験におけるボロニゼーション実施状況: ·第1回目 2002年1月12日 200sccm 6時間 ~20nm程度の膜厚 ·第2回目 2002年1月28日 300-380 sccm 7時間 ~40nm程度の膜厚



ボロニゼーションの効果





・酸素の低減 ・放射損失の低減 が得られた。



ボロニゼーションの効果



運転密度領域の拡張



ジボラン導入口の増設

ボロン被覆率の増大 より明確な効果を期待

Boronization 後のHe Glow Discharge Cleaningの効果

東大高温プラズマ 門 信一郎

●LHD-CXS用 10.5UL(Glow電極有),7.5ULポート(Glow電極無)

●50cm-Czerny Turner 分光器(1800 line/mm, f/5, slit 100um)にてHα計測

露光時間で規格化したHα光(B-H膜から脱離した水素の解離生成物)の 測定値の時間変化(冷却CCD検出器(CXRS用)の積分時間は10s-60s)

GDC after Boronization 2002/01/12-15











After the 3'rd campaign in 1999 (shot # 7120 - 17311)

B_{div} field lines at this tile are near normal incidence.

There are many colored lines in visible photo.

Fe deposition is mainly due to every night GDC of the total 2,300 hrs.

Two distinctive traces correspond to R_{ax} =3.6 and 3.75 m (17% of all shots).

Eroded depth is ~9um

T_{div}~20eV, n_{div}~5x10¹⁷m⁻³, Γ_{div} ~2x10²²m⁻²s Tile temp. < 370K by IR-TV

S.Masuzaki et al, J. Nucl. Mater. 290-293 (2001) 12.







真空容器内に材料サンプルを設置 実験サイクルを通した第一壁材料の挙動を解析(北大 信太、広畑、日野)

<mark>グロー放電時</mark>には、 第一壁材料である SUS316の主構成 物質である鉄が、 主放電時にはダイ バータ板材料であ る炭素が、それぞ れ主たる堆積物



シャッター付き材料サンプル上の堆積物解析例 (サンプル位置 10.5Lポート底部)

NIFS



まとめ 2



壁コンディショニング

・低温ベーキング、放電洗浄、表面コーティング(チタン、ボロン)により実施

・今年度実験終盤(壁の状況は落ち着いていると考えられる)にボロニゼーションを実施

酸素、放射損失の低下。

運転密度領域の拡張

・グロー放電中の分光計測により、ボロン膜からの水素除去のために十分なグロー放 電洗浄時間を評価

ダイバータ板損耗、表面分析

・ダイバータプラズマにさらされる位置と、それ以外の位置で明確な違い

ダイバータトレース上: 鉄の堆積少。ダイバータ板の損耗

上記以外:鉄の堆積構造性あり。

第一壁材料挙動

·グロー放電中は第一壁構成材料である鉄の堆積が、主放電中はダイバータ板材料である炭素の堆積が主である。